

## 令和3年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和3年7月28日(水) 午前10時～正午

【場 所】 豊田市役所 南51会議室

【出席者】 (委員) 菊池 秀夫 (中京大学 スポーツ科学部 教授)《会長》  
福岡 信明 ((公財)豊田市スポーツ協会 常務理事)《副会長》  
安藤 貴通 (公募委員)  
岩月 幸雄 (豊田市健康づくり協議会 会長)  
梅村 郁仁 ((株)名古屋グランパスエイト 広報コミュニケーション部 部長)  
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)  
岸田 多加司 (トヨタ自動車(株)スポーツ強化・地域貢献部 地域貢献グループ長)  
佐宗 敏久 (愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長)  
芝田 みゆ (公募委員)  
清水 弥生 ((一社)豊田市身障協会 副会長)  
谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)  
塚本 誠 ((株)豊田スタジアム 常務取締役 管理部長)  
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)  
築瀬 歩 (地域スポーツクラブ会議 委員)

【欠席者】 (委員) なし

【事務局】 粕谷 浩二 (生涯活躍部部長) 南 良明 (生涯活躍部副部長)  
都築 保裕 (生涯スポーツ推進課課長) 塚田 知宏 (スポーツ戦略課課長)  
古川 真一 (生涯スポーツ推進課副課長) 太田 信人 (スポーツ戦略課副課長)  
阿垣 一大 (生涯スポーツ推進課担当長) 山田 統裕 (スポーツ戦略課担当長)  
小石 拓也 (生涯スポーツ推進課主査)  
川治 明恵 (生涯スポーツ推進課主事)

【傍聴人】 なし

## 【次 第】

- 1 委嘱状交付
- 2 生涯活躍部あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長・副会長選出
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 諮問
- 7 議題
  - (1) (仮称) 第4次豊田市生涯スポーツプランの策定について
    - ①策定スケジュールについて
    - ②方向性について
    - ③状態指標(案)、取組内容及び指標(案)について
- 8 その他

## 【会議録(議題部分のみ)】

### ■議題(1) ①策定スケジュールについて

事務局：資料に基づき、策定スケジュールの説明

会 長：事務局から説明のあった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

各委員：特になし

### ■議題(1) ②方向性について

事務局：資料に基づき、方向性の説明

会 長：「する」「楽しむ」「支える」スポーツという3つの柱を基に、現在の状況と課題、それらを踏まえためざすべき姿、骨子について説明がありました。事務局から説明のあった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委 員：2点質問があります。1点目は、「子どものスポーツ推進」についてです。学校部活動の改革に伴い、受け皿となる子どものスポーツ環境の充実が必要とあります。働き方改革という中で、学校の教員における長時間労働が問題となっており、学校の部活動を廃止していこう、形を変えていこうという動きがあると聞いています。そういった中でのスポーツ環境の充実というものは、どのようなイメージを持っているのかお聞きしたいです。

2点目は、人材・組織の育成についてです。健康づくり協議会における最近の活動内容として、高齢者の体操やコグニサイズを中心とした活動の支援を行っています。高齢者が大勢いますが、楽しく運動を行っていただくには、それを指導できる人材がいなければ活動が尻すぼみになってしまうということが現状です。ボランティアといっても、無償のボランティアで人材を確保できるのかどうかについて懸念されます。以前は、専業主婦の方でボランティアに携わってくれる方が多かったです。最近ではほとんどの方が職を持っており、パートタイムの仕事を調整し、休みを取

って参加していただいているという状況です。これまでは、退職された高齢者によるボランティアへの参加も多くありましたが、定年の延長や廃止ということから生涯職業を持つといった方向性も出てきており、高齢者のボランティアにおける人材の確保ということも難しくなっています。こういったことを考えると、無償ということは今後の課題になっていくのではないかと想定されます。人材の確保と支援について、どう考えていくのかについてお聞きしたいです。

事務局：部活動の改革に伴う子どものスポーツ環境の充実に関する現在の状況として、休日における中学校の部活動は、学校の管理下で実施をしないということを示しています。小学校においては、部活動そのものを廃止していくという流れが出てきています。こういった国の流れを受けて、豊田市においても教育委員会と議論を始めつつあるという状況です。国では令和5年度から順次、中学校の休日部活動を地域に移行していくという流れになっています。それをどのように実施していくのかについては、現時点で国も全体的なイメージがない状況です。全国的には、実証実験という形で進めていきながら、課題等を抽出していくこととなります。豊田市としても、今年度から一部の学校でモデル的に始めていきながら、こういった形で進めていくのかを検討していきたいと考えています。子どもたちがスポーツをする環境の減少を少しでも食い止めたいと思っています。そのためにどのような形で進めていけば良いかについては、今後の議論が必要であると思っています。

人材育成におけるボランティアということに関しては、地域で技能や技術を持っている人が、子どもたちにスポーツを教えていくとなると、一定の謝礼などが発生してくると思います。単なるボランティアだけではない形や仕組みというものも、必要であると感じています。これについても、有償のスポーツの指導も視野に入れながら検討していきたいと考えています。

委員：豊田市は、旧豊田市と旧町村があります。市内における地域の格差がスポーツにおいても見られます。そういった現状を、計画の中でどのように是正されるのかということに関心があります。部活動の問題ですと、下山の方ではサッカーがやりたくてもサッカー部がありません。まちのサッカークラブへ加入し、仮面的に他の部へ所属している状況です。また、クラブチームでの試合に出場はするけれども、中体連の試合には出場できないという現状もあります。部活動を地域にアウトソーシングしていくことによって、子どもたちがスポーツをする環境が充実し、スポーツ振興につなげていくということであれば、どの地域においても、全ての人が同じように色々なスポーツを選ぶことができることも、子どもたちのスポーツ環境を充実させる上で重要なことであると思います。今の状態では、クラブチームなどにアウトソーシングをしても、地域で人数が足りない場合には複数の中学校区で合同チームをつくらなければ、試合に出場できないということになります。また、そういった形での中体連の試合への出場が認められるのかといった問題等も出てきます。休日の部活動における問題をどうにかするということだけではなく、現状の部活動における地域格差や地域によって行えるスポーツの種目に差があることの課題解決も踏まえて、スポーツの推進を考えていく必要があると思います。

事務局：部活動の改革は、あくまで1つのきっかけであり、主として考えていくべきことは、

子どものスポーツ環境の充実ということになります。地域における格差の是正では、全ての地域に全てのスポーツをとすることは難しく、現実的ではありません。しかし、中学校区に該当の種目がないのであれば、近隣の中学校区とセットで環境をつくるというような広い視点は持つことができると思います。現在の部活動を残すということだけにとらわれず、こういった部活動の改革をきっかけに、子どものスポーツ環境の充実ということに関して、地域格差の改善に向けて検討していきたいと思います。

委員：昨年も申し上げたことですが、スポーツはすることも楽しく、支えることも楽しんでやっています。なぜ、見るということだけに特化して「楽しむ」という文言になっているのかが気になります。「する」は機会、「楽しむ」は風土とありますが、「楽しむ風土の醸成」という中には、することを楽しむ、支えることを楽しむということも盛り込んでいくべきであるように思います。スポーツを「する」「みる」「支える」という「形態」と、「楽しむ」「努力する」「教育する」という「行為」とは分けるべきだと思います。

市では、色々なところから情報を吸い上げていると説明がありましたが、まだまだ情報収集がしっかりとできていないように感じます。愛知県子どもの体力向上委員会というものが開催されており、私も委員を務めていますが、そういった委員会での審議の情報なども踏まえて、子どものスポーツ推進といった部分に反映していくべきであると思います。

現時点での骨子は、優等生的な骨子が示してあり、他の組織との連携などが明確にされておらず、リアリティにかけるという印象です。障がい者スポーツは、パラスポーツ、ユニバーサルスポーツ、アダプテッドスポーツの3種類に分けられます。市として、これら3種類のそれぞれにおける方向性などを示し、リアリティのあるものにしてほしいと感じました。

トップアスリートやトップスポーツチームとの連携とありますが、実際にどういった連携を行っていくのでしょうか。スポーツ庁では、好循環モデルを示しています。豊田市においても、そういったモデルを示していくと良いと思います。どういった好循環を創出し、さらにはどういった効果をもたらすのかというビジョンを、もう少し分かりやすく示していただけたらと思います。

スポーツと地域経済の活性化というと、どうしてもスポーツツーリズムの内容に偏りがちです。スポーツの用具をつくる際に小原の和紙を使用してつくるなど、地場産業という視点もあると思います。豊田市のスポーツチームを応援する時には、市内での商品計画・商品化計画が広がっていくことも考えられます。広い意味での地域経済への活性というものが、期待できると感じています。スポーツツーリズムに終始してしまわないように気を付けてほしいです。

今の時代は、情報発信と言っているだけでは足りないと思います。情報は、双方向で利用しあっていかなければなりません。市が情報プラットフォームを整備し、双方向に情報交換ができる場をつくっていく必要があります。情報発信だけではなく、情報を吸い上げていくシステムを検討していかなければいけません。

こういったことに関して、すべてを修正し、文言を整えるということではありませ

んが、今お話ししたニュアンスが伝わるような記載等を、前向きに検討してもらえればと思います。

事務局：核心を突いたご意見をいただいたかと思いますが、これをどのように計画に反映していくかは、この場で即答するのは難しいということが正直なところです。リアリティがないという意見については、この後の具体的な取組や指標というところで説明させていただく中で、ご意見・ご質問のお答えになる部分もあるかと思しますので、後の説明をお聞きいただければと思います。

お話にありましたように、地域経済の活性化ということに関してはスポーツツーリズム以外にもありますし、トップアスリートやトップスポーツチームとの連携における好循環モデルやビジョン、障がい者スポーツにおける分類など様々なことが挙げられます。いただいた意見の中で、具体的にどの内容を計画に反映できるのかについては検討していきます。

「楽しむ」という表現、「する」「みる」「支える」との分類や兼ね合いということについては、今示しているもので説明が全てできるのかということもあるように思います。「楽しむ」に関して、「する」「みる」「支える」の全てにかかってくるということではありますが、ここまで検討してきた中で、豊田市としては「みる」の部分を「楽しむ」という区分でいきたいとの想いを持っています。けれども、「する」「支える」に「楽しむ」の要素がないということではありません。資料説明でもお話ししましたように、「する」「楽しむ」「支える」が融合している、有機的に連携しているということの中で、説明をしていけると良いと考えています。

委員：「する」「楽しむ」「支える」が有機的に連携しているということに関しては、とてもよく分かります。しかし、「することを楽しむ」「支えることを楽しむ」というように、だぶりが出てくる状態になっています。私としてはその点が気になりますが、市の方針として「楽しむ」とするのであれば仕方のないことであると思います。

会長：「楽しむ」ということに関しては、昨年から議論がされている内容です。現行のスポーツプラン策定時に、「みる」という行為そのもの、概念が小さいのではないかという意見があり、もう少し幅広い視点で、「楽しむ」というキーワードを使うのはどうかとの議論があったように記憶しています。全ての要素に「楽しむ」ということがかかってきますので、それをいかに内容として表現していくのかということが課題になってくるように思います。「楽しむ」が全体にかかってくるような工夫も必要であるように感じます。

## ■議題（１）③状態指標（案）、取組内容及び指標（案）について

事務局：資料に基づき、状態指標（案）、取組内容及び指標（案）の説明

会長：具体的な取組内容等の説明がありましたが、様々な団体・組織とも関わりが出てくる内容かと思えます。事務局から説明のあった内容について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

委員：成人のスポーツ推進について、「趣向に応じた」とあります。具体的な取組の中には、趣向別といったものは記載がありません。自己実現を目指して、歳を取ってもアス

リト的に頑張りたいという人への支援や健康のためにスポーツを行いたい人への支援、レクリエーションや交流を目的とした人への支援など、それぞれへの具体策がほしいと感じました。マスターズの大会などが開催されているので、そういったものと関連付けることも考えられます。マスターズへの大会出場人数を設定するなども良いと思います。

名古屋グランパスの応援が、スポーツをみる・楽しむということのメインに出てくるのは間違いないことであるように思います。ただしその他にも、中京大学の運動部の試合やトヨタ自動車のチームの試合が市内で開催される時に、応援に行くというような内容の記載がないことが少し残念に思います。大学の野球リーグでは、次にどういった試合があるのかという周知を行い、市民で応援に行くなどの取組を行っても良いと思います。高校野球でも同じことが言えると思います。遠くのビッグチームよりも、身近なローカルチームの方が、地域の活性化に対する「みる」効果が高いという記述を目にしたこともあります。そういったことに関しても、具体的な取組として目を向けていただけると、もっと楽しいと感じました。固定観念、先入観を捨てていただいて、ゼロベースで広く考えてもらえると良いと思います。

事務局：「趣向に応じた」という部分の具体的な取組としては、資料3の3ページから4ページにおいて8つの取組を記載しています。こういった取組の中に散りばめられており、お話にありましたマスターズの内容を含めていくかなどについては、今後の検討事項になってくると思います。

「楽しむ」ということの中で、名古屋グランパスの応援ということに加えて、トヨタ自動車のチームなど色々なチームを応援していきたいと考えています。資料3の4ページにあります「ホームチーム応援事業」において、大学や高校の野球の応援・観戦を想定していくことは可能ですので、そういった取組を行っていけると良いと考えています。

委員：今年度の中学校の大会が無事に終わりました。様々なところに協力いただき、大きな怪我もなく終えることができました。今年は、新型コロナウイルス感染症への対策や熱中症対策などから、日程や会場を増やして開催しました。会場の確保にはとても苦労しました。最初は無観客ということでしたが、最終的には有観客に変更し、保護者に周知をして来ていただきました。しかし、観戦するには相応しくない学校会場などもあり、役員やスタッフの配置なども難しい部分がありました。豊田市には施設がたくさんあるので、企業や大学と連携を図り、大会等を行えると良いと考えています。中京大学には、すばらしいサッカーコートなどがありますので、そういったところを活用させていただくと、子どもたちが思いきりプレーをすることができるように感じます。

学校部活動の全てを地域で取り組んでいくということは、難しいと思っています。私の勤めている中学校には弓道部がありますが、弓道の指導をできる指導者が毎年確実にいるかということ、難しいというのが現状です。スポーツボランティアへの登録に関して、スポーツ協会からの派遣なども含めて取り組んでいけると、子どもたちの部活動、スポーツ環境の充実につながると思います。休日部活動の地域移行ということが難しいのであれば、地域移行ができる受入体制が整うまで待つということ

も、これから考えていかなければならないと感じます。地域によっては、やりたいスポーツを行うことができないというお話もありましたが、部活動に登録する生徒が減っている学校もあります。合同チームを組まなければ、活動ができないという現状もあります。受け皿を考えていく時に、部活動を学校での活動から地域でのスポーツとするということでも良いかと思えます。そうであるにしても、指導者の確保については大事な部分かと思えますので、色々な団体等との連携や派遣をしてもらうシステムをつくっていただけるとありがたいです。

会 長：施設に関することや官民のパートナーシップ、部活動の問題、それを担う指導者ということについてご意見をいただきました。

事務局：施設に関して、市内のスポーツ施設を利用する時にはニーズが高いこともあり、利用したい時に利用ができないという方がいます。一方で、維持管理のために一定期間止めないといけない場合が出てきます。企業や大学でも同じようなことが考えられますが、そういった時にお互い補完していくことができるような形が取れると良いと感じています。

部活動における指導者の確保については、大きな課題であると認識しています。仕組みとしてどのような形で進めていくのかということは、これから検討していくことになりませんが、各スポーツの競技における団体の指導者や学校の教員の中にも指導を希望される方がいて、必要なことだと思いますので、そういったことを含めて人材をどのようにマッチングしていくのかについても考えていかなければならないと感じています。

委 員：部活動の指導に携わらせていただいている中で、感じていることをお伝えできればと思います。部活動の良い点は、教育現場と部活動、つまりスポーツが近いところにあるということです。教育とスポーツがつながっていくということが重要な部分です。外部指導者として携わる場合には、教育という部分にどのくらい関わっていけば良いのかというところは難しいです。教員の中で指導を希望される方にも、部活動の指導として継続できるような取組を進めていただけるとありがたいです。

事務局：事務局としても感じている内容ですので、いただいたご意見を参考にさせていただきます。

委 員：第3次プランでは、14 ページの施策体系において重点的な取組が示してあります。今回の策定において、重点的な取組や項目などの設定は考えていますでしょうか。

事務局：第3次プランでは重点的な取組について印が付けてあり、今回は特に印等がないため、重点的な取組は設定しないのかというご質問かと思えます。現時点では重点的な取組の設定についての認識はありませんが、第4次プランでも設定していく方が良いというご意見でしょうか。

委 員：第3次プラン策定の時には、子どもの運動能力が全国平均と比べると低くなっており、働く世代、成人のスポーツ実施率が低いということに危機意識を持っていました。この点を課題と認識していたため、どう取り組んでいくのかということが議論になったのを覚えています。第4次プランの骨子をみると幅が広く、全体を網羅した内容となっておりますが、リアリティに欠けるように感じます。問題点を明確化し、それに対して具体的に掘り下げていくことが重要ではないかと考えています。課題

を掘り下げ、何に取り組んでいくのか、ターゲットを設定し、モデル事業を設定して取り組むなどしていきながら、効果を確認・共有して取組を広めていくことが重要です。掘り下げた取組を行っていくことが重要だと思いますので、重点的な取組・項目などを設定して取り組んでいただきたいと思います。

事務局：事務局の方で検討させていただきます。

委員：スポーツ施設の運営・維持管理についてです。施設の利便性の向上を図ることが必要とありますが、安全性や利便性に加えて、施設の予約や利用方法について情報発信していくことも必要だと感じます。理由として、私の周りには使い方を知らない人や施設の予約方法を知らない人がいます。

現在愛知教育大学に通っていますが、大学に掲載されているボランティアの応募の中で、他の市からは色々なボランティアの募集があります。しかし、豊田市からのボランティアの募集については、あまり目にする事がありません。ボランティアの募集について、教育大学などに行うことによって、人員不足への対応・解消につながるように思います。

事務局：現場からの貴重な意見をいただきました。施設の利用や予約の方法に関する周知、ボランティアの募集についても検討していきたいと思っております。

会長：今回は、(仮称)第4次豊田市生涯スポーツプランの策定について、策定スケジュール、全体の方向性、取組内容ということで審議をしてきました。全体を通して、ご意見やご質問はありますか。

各委員：特になし

会長：(仮称)第4次豊田市生涯スポーツプランの策定の進め方について、採決を取りたいと思います。(仮称)第4次豊田市生涯スポーツプランの策定について、事務局からの説明、皆さんからいただいた意見を基に、プランを策定することに賛成いただける方は挙手をお願いします。

各委員：挙手

会長：賛成多数ですので、承認されたこととします。今日いただいた意見等を基に、(仮称)第4次豊田市生涯スポーツプランの策定を進めていただきたいと思います。それでは、これもちまして審議を終了いたします。

以上